

世代交流
拡大号

世代を越えて集う「東京鰐陵会」を目指して

特集1「第31会東京鰐陵会総会報告」 特集2「会員と共に」 特集3「母校は今」

東京鰐陵会・会長挨拶

節目を終えて、次のステージへ

東京鰐陵会会長 加藤友成(40回生)



東京鰐陵会は昨年「石巻高等

学校創立百周年記念式典」「東京鰐陵会創立65周年記念」という節目の年に記念に残る事業を進めてまいりました。

第一には東京鰐陵会で募金活動を行い、石巻高校に「校訓パネル」を贈呈しました。式典では実行委員会から感謝状を頂き母校へのお役立ちが出来たことの喜びを改めて感じました。また12月23日には石巻高校において全校生徒を前に「校訓パネルの贈呈式」をさせて頂きました。改めてまして募金活動にご支援を頂いた会員の皆さんに感謝と共に心より御礼申し上げます。

第二は「東京鰐陵会総会」においては節目を記念した様々なイベントを企画・実施

しました。会場には一二〇名を超える方々に参加頂きまして大変な盛り上がりとなりました。須田校長先生からは百周年記念式典のご報告を頂き「校訓パネル」目録の贈呈もさせて頂きました。

第三としては「会報誌」において「石巻高校創立百周年記念号」として発行しました。多くの方々からご寄稿を頂き大変充実したものになりました。

第四としては「石巻の宝・高橋英吉氏上映会」(六月九日)を開催しました。四団体による共催で一二団体による後援を頂き高橋英吉氏の世界に浸ることが出来ました。いずれも記憶に残る活動となりました。

今年度は「世代交流拡大の年」と位置付け次のステージに向けて「世代を越えて集う東京鰐陵会を目指して」という旗印を掲げて一層の発展をしていきたいと考えています。一番目の「東京鰐陵会総

会」は三部制として第一部の「総会決議」に続き、第二部は「石巻リクリエイト」と題して谷口大造氏(芝浦工業大学教授・五五回生)による講演を予定しています。学生と共に活動している石巻へのお役立ちの活動を紹介頂きます。第三部の懇親会では幅広い世代の会員の方々と語り合いの場を楽しみたいと考えています。

そして二番目としては東京鰐陵会会報誌「東京鰐陵」二三号です。今回は「世代交流拡大号」として発行します。特集1としては「東京鰐陵会総会報告」です。幅広い世代が集合しての楽しい集いが報告出来ました。特集2は「会員と共に」です。「百周年記念の活動報告」を掲載しています。また各世代の方々よりご寄稿を頂いております。

特集3「母校は今」としては「百周年記念式典を終えて―新たな百年に向けて―受け継がれた鰐陵魂」と題し

て活動の報告がされています。生徒たちの元気な姿を見ることが出来ます。是非ともご一読ください。

三番目は「東京鰐陵交流会」の実施です。今回は初めて若い世代との交流を狙いとして交流会を企画・開催しました。三一回生から八九回生の幅広い世代との交流が実現して新たなステージへのキックが出来たと考えています。東京鰐陵会は昨年の節目での活動を終えて次のステージに向けて一段の交流拡大に尽力していきたいと考えております。

最後になりますが昨年の皆様のご支援ご協力に対しまして改めて感謝申し上げます。今年度も引き続き何卒宜しくお願い申し上げます。



創立百周年記念事業を終えて

鰐陵同窓会会長 青木利光(43回生)



東京鰐陵会の皆様には平素より母校と鰐陵同窓会の事業に格段のご理解とご協力を賜りまして厚く御礼を申し上げます。

令和六年十一月八日、母校百周年の式典、講演会、祝賀会を開催しました。本来、令和5年度に開催する予定でしたが、令和二年から猛威を振るい続けたコロナ感染症の影響で準備が大幅に遅れ、一年遅れの開催になりました。延期しても百周年の事業は何かと大変でしたが、実行委員の皆さんの頑張りで全て成功裡に終えることが出来ました。当日は貴会からも加藤会長はじめ多くの会員にご参加頂きありがとうございました。

式典と講演会の会場はマルホンまきあーとテラス、東日本大震災後、開成地区に新た

に出来た石巻市の複合文化施設です。この施設には丁度三年前の十一月から石巻博物館が併設されるようになりました。館内の展示室には我々の大先輩、高橋英吉氏(二回生)の木彫作品が常設してあります。《高橋氏に關しましては貴会の会報No.22の百周年記念特別寄稿『生きてゐる高橋英吉』に詳しく掲載されています》代表的な作品『海の三部作』は開館に合わせて宮城県美術館から里帰りし公開されております。また、皆さんご存知の母校所蔵の『聖観音立像』も展示されております。この像は昭和三十一年高橋氏の実兄より『弟の遺志を継ぎ、母校に寄贈した。後輩の励みに成れば幸いである』と寄贈されました。寄贈後は旧図書館(平成一八年解体)や新校舎の図書室に保管展示されており、在校生には身近な存在だったのは皆さん周知の通りです。母校の宝でもあり、学校と生徒を見守るような存在でしたが、もっと広く一般の

皆様にも見て頂けるように貸し出しをしております。

式典後に講演会、講師は世界中を飛び回り、活躍している自然写真家の高砂淳二氏(五三回生)です。多忙な中、講師を快諾して頂きました。世界各地で撮られた写真が素晴らしいのは言うまでもありませんが、「どのようにして撮ったのか」「何故この写真を撮ったのか」という話の内容は心に響き、共感出来るものがありました。現役の生徒達にも得るものがあったと思います。また、年が明けた令和七年二月に世界最高峰の自然写真賞を受賞した作品『ヘブンリーフラミンゴ』を寄贈して頂きました。国内外各地で作品展を開催しておりますので既にご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。現在、東校舎一階廊下の校長室と事務室の間に展示してあります。そしてその隣にはやや赤みがかった黄金色の立派なパネルが輝きを放っています。貴会よりご寄付頂きました校訓のパネルです。経年変化で数十年経った方がより深みのある色合いになるのですが、そこまで

長生き出来そうにないのが残念です。後輩達が次の百年大切にしてくれるでしょう。書は千葉宗玄氏(四五回生)によるものです。本部で毎年発行している会報の題字も千葉氏の書です。一行目には石中・石高の二つの校章の間に『自ら進運を開拓すべし』とあり、二・四行に三つの生徒心得綱領が記されています。東京鰐陵会の皆様も機会がありましたら、母校に足を運んで頂き、見て頂きたいと思えます。

祝賀会は石巻グランドホテルでの開催でした。新たな百年において母校がさらに発展することを祈念し、大いに盛り上がりました。

全員に配布という訳にはいかなかったのですが、関係各位の尽力により予想以上に立派な記念誌を発刊することが出来ました。百周年と言う大きな節目ですので随所に創意工夫を凝らしております。特に三部構成の「鰐陵一〇〇」には母校のことが多岐にわたって掲載されています。様々な視点から過去と現在を知ってこそ未来の予測や見通しが立ち、展望が開けます。そのための

指針となり得る記念誌だと自負しておりますが、近年の社会の変遷は予想外に早く、新たな百年ではこれまでの経験では解決出来ない問題が発生することも十分考えられます。その時こそ「自ら進運を開拓すべし」のもと培ってきたもので対応せざるを得ないと考えます。

東京鰐陵No.22の一頁に大きく「世代を超えて集う東京鰐陵会を目指して」とあります。支部によって事情は異なりますが、若い回生の参加が少ないうちは多くの鰐陵会に共通しています。解決すべき喫緊の課題の一つです。もう一つ本部も含めて課題があります。女性会員をいかにして同窓会事業に取り込んでいくかです。平成十八年の男女共学化で初めて一〇二名の女子(通算八一回生)を迎え入れ、三年後の二十一年からは毎年女子の会員を迎え入れてますが、同窓会の事業にはほとんど参加がありません。まだ女子一学生でも三十代なので年齢のせいかもしれません。そろそろ女性会員が参加しやすい体制、雰囲気を作っていく必要性があると考えております。

結びに貴鰐陵会の益々のご発展と会員各位のご健勝を祈念するとともに百周年記念事業への多大なるご寄付、ご協

次の百年に向けて

宮城県石巻高等学校 校長 難波智昭（57回生）



東京鰐陵会の皆様には、本校の教育活動に日頃より格別の御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、昨年は創立百周年記念「校訓パネル」の寄贈をしていただき感謝申し上げます。（校長室入り口脇に掲額しております。）

今年の四月に着任しました、五七回生の難波智昭と申します。どうぞ、よろしくお願ひします。

母校とはいふもののまだまだ不慣れな点が多くあり、四苦八苦している着任後間もない中での執筆ですので乱文をお許しください。私の紹介

賛、ご尽力を頂きましたことに心より御礼申し上げます、ご挨拶と致します。

と昨年創立百周年式典を執り行った石高（鰐陵）が次の百年に向けてどう取り組んでいくのか、私の思いを書かせていただきます。

まずは、私（五七回生）ですが、丙午生まれ（この年だけ出生数が少ないといった年）だったので、入試倍率がほぼ一倍という当時の石高では考えられないような倍率の年でした。入学してすぐ、OBを含む先生方から言われたのは「丙午の年だからおまへたちは石高には入れた事を忘れないように!!」と釘を刺されたことは今でも鮮明に覚えています。

入学した昭和五七年度という、昭和五五年には運営が廃止されていた「北辰寮」の解体、昭和二八年竣工の体育館兼講堂として使用されていた第一体育館（木造）の解体、

新たに講堂兼第一体育館（鉄筋・暖房完備）竣工の年でもありました。バスケット部に所属していたので入学当初は、木造の体育館で卓球部との共用の活動でした。今では、見かけることがなくなった扇形のバスケットボードで練習したものでした。練習の後半に、昭和四九年に石巻商業高校から移管され第二体育館と称していた体育館に移動し、定時制の授業が始まる前まで練習したのが思い出です。二年生からは新築の第一体育館で快適な練習環境になり練習にも更に熱が入りました。そのおかげ？なのか、高校三年生で県選抜に選出され、奈良（わかさ）国体に出場し、全国三位という成績を収め、「鰐陵賞」をいただくことが出来ました。その後、ご縁があり保健体育教員として平成一年々十年間勤務し（男女共学への移行も経験）、紆余曲折あり今年一七年ぶりに校長として赴任することとなりました。

これら何かのご縁だと思ひ、母校のため「粉骨砕身」務める所存ですので、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、本校は、昨年創立百

周年記念式典を執り行った歴史を持つ伝統校ですが、伝統校として最も大事なことは伝統に安住することなく、今の時代におけるあり方を常に考え求めている、「創造・進化・発展」の積み重ねだと思っております。まさに「進取独創」の精神そのものだと思います。

東日本大震災後、急激な石巻圏域の人口減少にともなう少子化は本校にとっても大きな問題であり、今まさに次の百年に向け「地域とともにある」「地域の期待を背負う（進学拠点校）」として、これからの時代における本校のあり方を考えていかなければなりません。これから先は今のままの伝統を土台にした新しい「鰐陵 石巻高等学校」を創造していかなければなりません。石高に通うすべての生徒が伝統にどのように向き合い、新しい石高の姿をどのように創造していくか、これからの世界を牽引する生徒がどのような学校生活を過ごし進化・発展させていくか、そして我々教職員がどのように支援していくか、難しい課題ですがともにしっかりと向き合い「シン・鰐陵」の創造に取



り組んでいこうと思っております。生徒達には、「伝統は誰かによって作られるものではなく、石高で学ぶすべての生徒が学校生活に対して真剣に向き合い、積み重ねていく中で作られていくもの」ということを伝え、次の百年に向かいその一歩一歩をしっかりと積み重ねていくことを期待しています。

結びとなりますが、東京鰐陵会の皆様の御健勝と御多幸を御祈念申し上げますとともに、次の百年に向けて本校の教育活動に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

創立百周年記念式典に寄せて

宮城県石巻高等学校前学校長 須田一憲（55回生）



東京鰐陵会の皆様には、本校の教育活動に日頃格別の御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、創立百周年記念事業において東京鰐陵会の皆様から「校訓パネル」を寄贈していただきましたことに、生徒、教職員を代表し、改めて感謝申し上げます。

さて、令和六年十月三十日に開催されました東京鰐陵会第三回総会で、私から創立百周年記念式典（令和六年十一月八日）の御報告をさせていただきましたが、この度、この紙面をお借りして、式典の校長式辞を皆様に御紹介いたします。

『朝潮の寄する磯辺に、今日も生徒たちが、眉清く集つてきました。このことは、百年間、続いています。』

本日ここに、多数の御来賓の

皆様の御臨席を賜り、創立百周年記念式典を挙行できますことは、誠に喜びに堪えません。

この会場の皆様側からご覧いただいて、右側に「質実剛健」、左側に「進取獨創」、そして二階席前に「自ら進運を開拓すべし」とあります。

「質実剛健」とは、飾り気がなく、真面目で、たくましいことです。

「進取獨創」とは、新しいことに、積極的に果敢に、挑戦することです。

そして、「自ら進運を開拓すべし」とは、進歩・発達の機運を自ら切り拓くことです。

この創立当時の校訓は、本校の伝統であり、百年の時代を超え、現在もなお生徒心得綱領として受け継がれ、本校教育の根幹をなしているものであります。

この校訓のもと教育活動を展開してきた本校は、令和五年に創立百周年の記念すべき年を迎えました。

この百年の間に、日本の教育の在り方は大きく変化してき

ましたが、本校も大正、昭和、平成、令和の時代にあつて幾多の変遷を経て参りました。

顧みますと、本校は大正十二年四月に宮城県石巻中学校として、鰐陵の地を拓き新校舎を建設し、百五人が入学し開校しました。第二次世界大戦後、昭和十三年には学制改革により宮城県石巻高等学校と改めるとともに定時制課程が設置され、昭和二十五年には全日制課程が一学年六学級となりました。その後、平成十八年に男女共学化を実施、平成二十年に定時制課程閉講、平成二十三年三月十二日に発生した東日本大震災からの復興を経て、今日を迎えました。

この間、教育活動に絶え間なく改善を加え、時代の多様な

変化に対応して参りました。また、二万四千十三人の卒業生を輩出し、卒業生は国内及び世界において各界に多士済済、すばらしい実績をあげておりますことは喜びであり誇りとするところであります。

本校の使命は、百年にわたる伝統を継承し、地域の進学拠点校として、石巻地域・宮城県を支える人材、日本社会・世界人類に貢献する人材を育成することにあります。

空と海とを見はるかす鰐陵の地に、志を高く持った生徒たちが、眉清く集い、学ぶ。太平洋の大海原を見ながら人生について思索し、我が運命を拓く。受け継がれてきた鰐陵魂は「自ら進運を開拓すべし」。石高は

かくあるべしと思う。

結びに、本日の式典によって、鰐陵の歴史と伝統に思いを寄せた皆様が、新たな百年においても、本校のより一層の発展にご尽力してくださることを祈念しておりますとともに、本日御多忙のところ御臨席賜りました御来賓の皆様、創立百周年記念事業の実施にあたり、御尽力いただきました実行委員会の皆様を始め、関係各位に心より御礼申し上げます。

特集プロローグ

東京鰐陵会会報誌「東京鰐陵」23号は「世代交流拡大号」と題して特集を組みました。編集にあたっては「世代を越えて集う東京鰐陵会を目指して」の旗印を掲げて進めてきました。3つの特集を柱にしています。特集1「第31回東京鰐陵会総会」、特集2「会員と共に」、特集3「母校は今」です。以下にご紹介いたします。（敬称略）

■特集1「第31回東京鰐陵会総会報告」

「石巻高等学校創立百周年」そして「東京鰐陵会創立65周年」

を記念した第31回総会の報告です。

幅広い世代の方々が集い、大変盛り上がりのある総会となりました。

◎第一部：総会決議

◎第二部：石巻高等学校創立百周年を記念して（東京鰐陵会創立65周年記念）

◎第三部：懇親会

■特集2「会員と共に」

「石巻高等学校創立百周年記念」及び「東京鰐陵会創立65周年記念」事業報告

昨年度の活動を総括し、本コーナーでは「校訓パネルの贈呈」について中心に報告しています。

◎「各回生による寄稿」、「会員から

の便り（近況ハガキ）」

※尚、今回は石巻高校書道部の方々の作品を挿絵として掲載させていただきました。感謝申し上げます。

■特集3「母校は今」

今回は「百周年記念式典を終えて」

新たな百年に向けて 受け継がれた鰐陵魂と題して寄稿頂きました。

「百周年記念式典」「令和7年度進路状況」「令和6年度・各部活動の活躍」等。

是非ともご覧ください。

特集1 第31回 東京鰐陵会総会報告

旧制中学から百周年という節目を迎えることができた宮城県内の公立高等学校は八校目ということです。母校、石巻高等学校が創立百周年記念行事を実施できた良き年に、東京鰐陵会も六五周年という節目を迎えることができました。

その記念すべき年の第31回東京鰐陵会総会を一一八名の方の参加を得て、2024年11月30日に喜山倶楽部平安の間で実施することができました。

総会第一部 総会決議

1. 開会

◎開会の辞

瀬川徹副会長（40回生）

◎校歌斉唱

指揮 和泉耕二氏（38回生）

◎黙祷

2. 挨拶 加藤友成会長（40回生）

3. 議事 議長 平塚善伸副会長（40回生）

◎活動経過報告及び役員改選
加藤友成会長（40回生）

◎第1号議案 2024年度事業報告 会務・活

動報告 伊藤純一事務局長（43回生）

(1) 会誌

(2) 会報誌（22号）発行

(3) 「高橋英吉氏上映会」

(6月9日)の開催 共催

(4) 石巻高校100周年

記念品の贈呈

【第2号議案 第3号議案】

2024年度収支報告及び監査報告 2023年

10月1日（2024年9月30日）

新田輝夫事務局次長（会計担当）（42回生）、熊谷勝義

監事（38回生）

★拍手で決議事項が承認されました。



会場風景：総会決議

4. 閉会の辞 瀬川徹副会長（40回生）

総会第二部 石巻高等学校創立百周年を記念して（東京鰐陵会創立65周年記念）

1. 来賓紹介

宮城県石巻高等学校校長

須田一憲様（55回生）

鰐陵同窓会副会長 井上

様（52回生）

鰐陵同窓会事務局長 二

階堂守弘様（57回生）

2. 来賓挨拶及び式典報告

来賓を代表して、鰐陵

同窓会副会長 井上二様（52回生）より、百周年

記念品の感謝と20年前の会報から同窓会の意義に

ついて述べられました。

・石巻高等学校校長の須田一憲様（55回生）からは百

周年記念式典の報告、併

せて記念品「校訓パネル」

の経緯のお話がありました。

大正12年に開校して

以来、24013人の卒業生を輩出していま

す。その諸先輩を引き継

いで創立からの「進取独

創 自ら進運を開拓すべ

し」をさらに充実させて

いくと述べられました。

3. 百周年記念品贈呈

加藤友成会長より須田一憲校長へ記念品の目録を贈呈しました。

そして、石巻高等学校から東京鰐陵会に感謝状が渡され、紹介されました。

4. 米寿喜寿のお祝い

《米寿》 27回生の3名の方に、本年度よりタンブ

ラーが、《喜寿》38回生の13名の方にボールペンが、合

わせて16名の方に加藤友成会長、瀬川徹副会長、平塚

善伸副会長からそれぞれ

記念品が贈呈されました。

代表挨拶 吉田貢さん（27回生）

「ただいまお祝い品をいただきました。有り難うござ

いました。思い起こします

とあつという間の出来事でした。印象深いのは多感な時

期、石高時代のことです。勉

強など多くのことで同期の

仲間にかわいがっていただ

い本日があります。その後

も60年間変わらないご愛顧

をいただいて有り難うござ

います。コロナ禍前までは年に

一度東京のどこかで騒い

りました。いつも17、18人集

まっていたのですが、コロナ禍

が終わった昨年この総会は3

人、今年は多くなるかなあ

と期待していたら去年と同じ3人。少し寂しいが、このように過分なお祝いをいただ

いて感謝しています。皆様

方には喜寿も米寿も通過点

ですので、是非頑張っていた

だいたいと思います。」

総会第三部 懇親会

1. 開会 司会

四野見喜久男さん（45回生）

2. 乾杯

成澤良さん（28回生）

3. ミニコンサート

母校100周年及び本会

65周年を記念してコンサートを実施しました。

渡邊公威さん（64回生）テ

ノール、内海清佳さん（82

回生）ピアノ、三浦梓さん

（石巻女子高校出身）ソプ

ラノの3人が奏でる音色を

楽しませていただきました。

4. 当番幹事生の挨拶

新田裕史さん（45回生）

65回生の参加者が紹介され

ました。まさに「世代を越

えて集う東京鰐陵会を目

指して」という合い言葉に、

会場の各箇所では先輩後輩の

6. 応援歌・鰐陵歌斉唱

以前から応援歌を担当し



会場風景：懇親会

ていただいた鈴木卓郎さん（42回生）がエネルギーを振り絞って、熱い応援歌と鰐陵歌を盛り上げていただきました。

7. 当番幹事の引き継ぎ

新田裕史さん（45回生）から森田弘志さん（46回生）、佐々木清さん（46回生）に法被が手渡されました。

8. 中締め

最後に佐藤悠監事（37回生）に中締めをしていただき、本会を終了しました。

当番回生として

第31回東京鰐陵会総会を

振り返って 新田裕史

2024年11月30日に第31回東京鰐陵会総会が日本教育会館の「喜山倶楽部」にて開催されました。鰐陵45回生が当番幹事を務めさせていた

だきました。

卒業以来、鰐陵同窓会には長らくご無沙汰が続いていましたが、東京鰐陵会の事務局を手伝っている兄（42回生）から、「東京鰐陵会総会の当番幹事の順番がそろそろ45回生に回ってくる」といわれて、2019年の東京鰐陵会総会に初めて参加しました。その時の当番幹事は43回生でしたが、その奮闘ぶりをみて、「当番幹事になったら大変だ」という思いを強くしました。その時の45回生の出席者は大坂昌道さん（現・石巻在住）と私の二人だけでしたので、すぐに関東在住の鰐陵45回生のネットワークを作らなければならないと考えて、鰐陵同窓会45回生理事の阿部利彦さんに相談して準備を始めました。幸か不幸か、2020年から2022年まで3年間、リアル開催の総会は新型コロナウイルスの流行のため中止となり、その間にじっくりと準備をすることができました。45回生として四野見喜久男さんと私が東京鰐陵会の理事に就任することになり、二人で協力しながら、関東在住の同期と連絡を取り合うことから始めました。四野見さ

んはフェイスブックを立ち上げて、「おらほの会」と名付けました。

令和5年度は、ようやくリアル開催の総会が開催され、45回生は当番幹事前年というところで、懇親会では当番幹事の44回生から引継ぎをうける場面もありました。45回生は10名を超える参加があり、回生別の参加者数ではかなり多い方ではなかったかと思えます。ただ、総会直前になって参加表明をする者もいて、事務局にはご迷惑をおかけしました。これも在学中からいろいろやらかした45回生（やらかした内容は「鰐陵」66号（2023年）の回生だより45回生の欄を）らしいと言えるかもしれません。

今回の45回生の参加者は計11名でした。しかし、欠席の連絡をもらっていた鈴木潔さんは総会開催時間中にアメリカから激励の電話をくれました。伊藤茂さんは総会準備の打合せとして10月に行われた運営委員会に参加してくれていたのですが、総会は欠席との連絡があり、どうしたのかと心配していたところ、1月下旬に計報が届きました。この場を借りて、ご冥福をお祈り申し上げます。

ます。

2024年8月の石巻での鰐陵会同窓会総会には東京鰐陵会の当番幹事として、加藤会長さん、伊藤事務局長さんとともに参加させていただきました。その際にはたくさん同期と旧交を温めることができ、阿部利彦さんをはじめとして数名が「東京鰐陵会総会には応援に行く」といつてくれました。ただ残念なことにドクターストップがかかってしまった人がいたりして、結局、石巻からの参加者は無しになってしまいました。古稀を迎える歳になると身体の変調も他人事ではありません。

45回生の皆さんには、総会当日に早い時間から集まり、配布資料の準備やら、受付での誘導など、多くのサポートをいただきました。配付資料の袋詰めなど、自然に連携がとれるのも同期ならではの感じました。四野見さんは総会懇親会の司会の大役を、非常になめらかな語り口で、時には臨機応変にこなして、滞りなく会を進行しました。私は、45回生全員と一緒に壇上に上がり、代表して挨拶をさせていただきました。本郷さんはカメラマン

を務め、総会後に撮影した写真をDVDに収め、皆に送ってくれました。

我が家は父と二人の兄も含めて家族の4人が鰐陵同窓です。ただ、ばつちというのは何事も兄まかせのところがあり、同窓会にしても「兄が参加しているから自分まで参加しなくてもいいや」という優柔不断な考え方をしていました。ただ、まったく同期と関わりがなかったわけではなく、担任だった故・阿部秀先生が主宰していたクラシックコンサートの運営を手伝いに何度か石巻に帰ったこともあり、また松島での還暦祝いの同期会にも参加しました。今回、東京鰐陵会総会の当番幹事を務めることになり、初めて本格的に同窓会に関わることになりました。

高校生の時にはあまり話をした記憶がなかった同期とも、いろいろと世間話をするのができ、心にやすらぎのようなものを感じます。すでに鬼籍に入った同期も何人か数えられる中で、こうして同窓会に関われることは、自分が心身ともに健康であることであり、感謝すべきことだと感じています。

会場風景写真



開会の辞：
瀬川副会長



校歌斉唱：
和泉理事



議長：
平塚副会長



挨拶：
加藤会長



挨拶：
井上鰐陵同
窓会副会長



監査報告：
熊谷監事



校訓パネル
の贈呈



挨拶・
式典報告：
須田校長



米寿の
記念品贈呈



感謝状披露
(校訓パネル)

会場風景写真



米寿・喜寿
記念の挨拶：
吉田貢さん



米寿・喜寿
のお祝い



懇親会・
乾杯：
成澤良さん



懇親会司会：
四野見喜久男
さん



ミニコン
サート：
三浦梓さん



ミニコン
サート
の様子



ミニコンサート：
内海清佳さん



ミニコン
サート：
渡邊公威さん



当番幹事
代表：新田
さん(右)と
四野見さん



ミニコン
サートの様
子

会場風景写真



若手参加者
紹介



当番幹事回
生 (45回生)



歓談タイム



歓談タイム



歓談タイム



歓談タイム



当番幹事の
引継ぎ



応援歌指揮：
鈴木卓郎
さん



中締め：
佐藤監事



次期
当番幹事の
挨拶：
森田さん

各回生テーブル写真



25回生・役員



来賓・役員



30・31・32・33回生



26・27・28・29回生



37・39回生



34・36回生



40回生



38回生

各回生テーブル写真



38回生

42回生



41回生



44回生



43回生



48・65回生



45回生



45・50回生



56・67・87回生

特集2 会員と共に
特別寄稿「石巻高等学校創立百周年記念」及び
「東京鰐陵会創立65周年記念」事業報告

東京鰐陵会会長 加藤友成(40回生)

宮城県石巻高等学校創立百周年を迎え、心よりお祝い申し上げます。

「質実剛健」「進取独創」「自ら進運を開拓すべし」の教え

を貫き通し、積み上げてこられた歴史と伝統は後輩に引き継がれて益々輝かしい光を放ち続けております。「ふるさと」そして「国内外」で活躍

先輩諸氏の多大なるご苦勞を経て今日を迎えております。

現在、東京鰐陵会は「世代を越えて集う東京鰐陵会を目指して」を旗印にして活発な交流に努めております。

東京鰐陵会は昨年、この節目の年を記念して以下の活動に取り組みました。

一、石巻高等学校百周年を祝して石巻高等学校に、校訓パネルを贈呈

二、東京鰐陵会第31回総会では石巻高等学校百周年を踏まえ、東京鰐陵会65年の節目を記念として開催

三、東京鰐陵会会報誌「東京鰐陵22号」を「石巻高等学校百周年記念号」として発行

四、「石巻の宝・高橋英吉氏」映画『潮音 ある愛のかたち』東京上映会」を開催(4団体で共催)

これらの活動で記憶に残る一年となりました。

その中で「二、東京鰐陵会総会」については本号の別

コーナーで報告しています。また「四、高橋英吉氏上映会」を含めて会報誌「東京鰐陵22号」(前号)をご覧ください。

本コーナーでは「一、校訓

パネルの贈呈」を中心として報告いたします。

校訓パネルの贈呈について

経緯

東京鰐陵会の役員会において石巻高等学校創立百周年を記念して記憶に残る記念品を贈呈しようという企画が出されました。

記念品の内容についてはいろいろ意見はありましたが石巻高校からの要望を踏まえて決定することになりました。

石巻高校の須田校長先生にご相談した結果「校訓パネル」が要望としてあがり東京鰐陵会役員会において最終的に「校訓パネルの贈呈」が決定しました。

費用は約百万円が見込まれ、役員会において協議した結果、「東京鰐陵会での募金活動」と「東京鰐陵会の繰越金からの充当」で対応することになり、活動が始まりました。

「校訓パネル」について

■ 本体

・サイズ…1500mm
(横)×900mm(縦)
×36mm(厚さ)



校訓パネルの前で(石巻日々新聞ご提供)

・材質…真鍮

◎「贈東京鰐陵会」のエッチングプレート(パネルの左側面に取り付け)

・サイズ…32mm(横)×460mm(縦)

・材質…ステンレス

■ 募金活動について

「石巻高等学校創立百周年記念・募金活動概要」について

◎主催…東京鰐陵会

◎募金活動期間…

2024年10月1日～

2024年11月15日

■「校訓パネル」の設置完了
(校長室前)

2024年10月



校訓パネルの贈呈（2024年12月23日）
石巻高校にて

石巻高校創立100周年記念校訓パネル代協賛金協力者
2025年8月4日現在（165名）【784,100円】

回生	氏名	回生	氏名	回生	氏名	回生	氏名
21	櫻田 巖	33	木村日出夫	38	早川 誠	43	松谷 昇
23	鹿野又 清	33	木村 貴則	38	船山 浩志	43	吉田 祐一
23	野中 浩	33	熊谷 正茂	39	阿部 重雄	44	赤坂 正行
24	佐藤 允俊	33	武山 洋治	39	岩崎 宏幸	44	尾口 仁志
24	高山 研造	33	橋浦 武夫	39	氏家 一行	44	田 昭治
25	阿部 剛	33	堀内 文夫	39	熊谷 道夫	44	半澤 竹彦
25	佐々木俊文	34	明石 公夫	39	今野 雅隆	45	伊藤 英二
25	中里祐二郎	34	阿部 千春	39	佐藤 泰助	45	庄子 茂
25	山下 文祥	34	内崎 光劬	39	佐藤真木男	45	新田 裕史
25	吉野 敏	34	久保 文征	40	阿部 義治	45	星 裕亮
26	小野寺康充	34	西條 修	40	伊勢 邦夫	45	三浦 洋次
26	崎野 隆三	34	佐々木孝三	40	岩崎久二夫	45	三井 尚
26	三宅 宗議	34	佐藤 洋一	40	加藤 友成	46	伊藤 隆
27	徳江 明	34	武山 佑三	40	木村 道夫	46	佐藤 浩二
27	船田 清孝	34	千葉 保宗	40	斎藤 紀夫	46	伏見 洋之
27	吉田 貢	35	邊見 義一	40	佐々木 進	47	及川 和彦
28	佐々木利勝	36	阿部 長光	40	瀬川 徹	47	佐藤 敦彦
29	菊地 靖雄	36	阿部 福一	40	田村 隆	47	畠山 卓弥
29	木村 莞爾	36	梅澤 智	40	萬代 玄	48	荒木 泰弘
29	千葉 弘二	36	菊地 潔	40	平塚 善伸	48	尾形 哲哉
29	半澤 正義	36	三浦 亨	40	渡辺 総一	48	加藤 博
30	木村 長人	37	安住 知彦	41	遠藤 栄松	48	鈴木 雅芳
30	今野 未治	37	阿部 貢	41	小関 真悦	49	横江 敏勝
30	首藤 光春	37	遠藤 信雄	41	菅原 新也	50	扇谷 雄司
30	鈴木 賀夫	37	木田 洋	41	中村 雅俊	50	後藤 和也
30	高橋 洋	37	今野 和明	41	山形 明夫	50	佐藤 健
30	寺澤 正興	37	境田 憲男	42	伊藤 二郎	50	山戸 淳
30	畠山 尚	37	榊 勝一郎	42	伊藤 信一	51	高橋 英紀
30	蜂谷 国彦	37	佐藤 悠	42	伊藤 輝昭	51	三宅幸次郎
30	蜂谷 国彦	37	白鳥 隆幸	42	鈴木 卓郎	51	森口 秀志
30	半澤 哲志	37	高橋佐千郎	42	田口 敏明	52	伊勢 浩明
30	増子 文人	37	丹野 静也	42	土屋 清治	52	高橋 章建
30	渡辺 武	37	千葉 徹	42	新田 輝夫	55	浅野 秀明
31	飯田 勝紀	37	星 千秋	42	村上 圭司	56	星野 知倫
31	伊藤 克夫	38	安住 豊	43	伊藤 純一	59	大橋 英之
31	奥山 興悦	38	阿部 盛行	43	遠藤 洋治	62	成家 新一
31	北川 洋三	38	荒川 憲一	43	大山 良治	67	笠原 秀浩
31	遠山日出夫	38	尾形 慎次	43	小田島孝好	73	佐藤 大和
32	猪俣 斌	38	熊谷 勝義	43	今藤幸一郎	75	木村 祐介
32	加藤 憲一	38	小池 泰	43	佐藤 休三		
32	鎌田 一郎	38	佐々木正秀	43	佐藤 雅洋		
32	櫻井 庸正	38	館澤 佑	43	成澤 貴義		

（敬称略）

「校訓パネル贈呈」の 会計報告

◎「校訓パネル」
費用見積もり合計…

1,045,000円

◎募金活動による協賛金

合計…784,100円

（165名）

◎繰越金からの充当金額…

260,900円

◎送金金額合計…

1,045,000円

◎協賛金協力者…

一覧表を参照

■「校訓パネル」の贈呈式
について

◎「東京鰐陵会総会」での「校訓パネル（目録）」の贈呈式

（2024年11月30日）

◎「石巻高等学校」での「校訓パネル（目録）」の贈呈式

（2025年12月23日）

■感謝状の授与

今回の校訓パネルの贈呈
に対して百周年記念式典
（2025年11月8日）にお
いて「百周年記念事業実行委
員会」より「東京鰐陵会」に対
して「感謝状」の授与があり
ました。

■今後に向けて

東京鰐陵会は次
のステップに向け
て「世代を越えて
集う東京鰐陵会を
目指して」交流拡
大に一層の尽力を
してまいります。
今後ともご支援ご
協力を宜しくお願
い致します。



校訓パネル贈呈式「石巻日日新聞記事（12/27）」



全校生徒を前に贈呈式の様子（2024年12月23日）石巻高校にて

鰐陵仲間とお付き合い

今野雅隆(39回生)

フェイスブックで「石巻(雄勝・金華山)トレイルツアー」が企画されていることを知り、すぐに参加を申し込んだ!!

今年2月8日、8時30分、石巻駅前集合。貸切バスで出発、10時大須漁港(雄勝)で降りて7km・3時間のトレイル開始。

天気は快晴で、故郷の潮風が心地よかった。歩き始めて間もなく、私はガイドさんと事務局の方が、親子ほども年が離れた(共学世代だということなのでそれ以上かも?)鰐陵の後輩であることに気づき、大いに驚く羽目に...

彼らの高校時代、圧倒的に元気だったという同期の女子に気を遣いながらも、鰐陵生として誇り高く、やんちゃだったという後輩たちの青春談義に会話が弾んだ!

翌月、私は念願の第二回「39鰐陵会(有志)」を、有楽町で主催することができた。

まず、今年の「東京鰐陵会」では、我々同期生が、喜寿のお祝い々をしてもらえることを伝えた。一人ひとり、方言を交えての近況報告(ほとん

どが病気の話)をすることからはじめたが、予定の2時間半は瞬く間に終わってしまった。会員資格を首都圏在住者に限定しなかったことから、他の支部から参加する仲間も増え、会員は12名から15名になった。これからも年一回は開催して、新しい思い出を作っていきたいと考えている。



「鰐陵51回生還暦同期会」開催

森口秀志(51回生)

今年度より理事(新役員)を仰せつかりました、51回生の森口です。みなさま、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、われら鰐陵51回生は、去る2024年9月28日、石巻グランドホテルにて還暦同期会を開催いたしました。2010年の同期会以来となる大規模な集いは、感染症の影響による延期を経て、3年越しの実現となりました。

数十年ぶりの再会にもかかわらず、顔を合わせた瞬間にあの頃に返ることができ、旧交を温め合う貴重なひとときとなりました。273名の同窓生のうち64名が参加し、クラスごとに一人ひとりが近況報告や在校時の思い出話(秘話?)を披露。そのたびに大きな拍手と笑いが沸き起こりました。私(森口)が所属していた文芸部の顧問、恩師・阿部正祐先生(英語)もご臨席くださり、変わらぬダンディーなお姿に、懐かしさと嬉しさが込み上げました。

卒業以来なかなか交わる機会がなかった同期とも、あつという間に打ち解け合い、

「鰐陵」のもとで育まれた絆は、時間や距離を越えて我々をつなげてくれると実感しました。これからのこの絆を大切にし、古希、喜寿と節目ごとの集いが続くことを願いつつ、次回、2029年5月に予定されている古希同期会に向けて、東京在住幹事の一人として尽力する所存です。

一方、東京においても、51回生は活発な交流を続けています。40年以上にわたり、毎年2月の第一金曜日には東京同窓会を開催し、旧交を温めながら共に歳を重ねてきました。東京在住の方はもちろん、全国からのご参加も大歓迎です。ぜひ一度、足をお運びいただければと思います。蛇足ながら最後に一言。わが母校も男女共学となつて20年近くが経ち、

東京鰐陵誌でも女子後輩たちの活躍がたびたび紹介されています。そろそろ女性役員が誕生してもよい頃ではないでしょうか。すでに議論されているテーマかもしれません。が、DEI(多様性・公平性・包括性)が重視される今、世代や性別を超えた交流こそが、東京鰐陵の未来を形づくるものと期待しています。



鰐陵67回生の時代とは

佐藤祐介(67回生)

私たち67回生は、昭和51年52年生まれです。団塊ジュニアより2、3年下の世代です。小学生くらいまでは週末に、家族で立町にある丸光やエンドーチェーンに行き、空にはシヨッパーズ石巻のセサナ放送が流れ、街にはアドバ

ルーンがたくさんあり、川開き祭りは人で溢れかえる。そんな活気に満ちた時代でした。

そんな石巻の良き時代も、昭和の暮れまでの十数年くらいだったと思います。昭和が終わり中学生になり、バブルの残り香もなくなった数年後、世の中がどんよりとした決して良くない時期に我々は幻の門をくぐりました。もちろん

地域ではNo.1の進学校でも、気づけば「仙台の進学高」は遙か遙か遠くに行ってしまっていました。そんな、何とも言えない屈託を抱えながら高校時代を過ごした人も多かったかもしれません。少なくとも私はそうでした。

なので、諸先輩方のように多方面で活躍できるのだからかという、ある種自虐的な感覚と不安を持ちながら高校時

代を過ごし、各自大学などへ進学し、そこから20数年の時を経て「令和5年度鰐陵同窓会総会」の幹事回生(66回正と共同幹事)として久しぶりに皆が顔を合わせることとなりました。

ここで驚いたのは、67回生の集まりの良さ！そして、総会準備作業を行う時のみんなのノリの良さ！20数年会ってなかった人、また高校時代に一度も会話したことのない人でも、当時の鰐陵祭の準備をしているようにニコニコしているのです。唯一当時と違うのは、みんな「おじさん」だということ。

そこから、東京鰐陵会でも定期的に集まりを設けたり、後輩(庄司輝秋監督71回生)が手掛けた映画「さよなら ぼやマン」を皆で鑑賞しに行ったり、仙台を中心に67回生のゴルフ倶楽部が出来たりして、繋がりはず絶えずに続いています。「バブルを知らない世代？上等じゃねえか！」という気持ちで、いつまでもおだづもっこをして今も青春を謳歌しています。

旅立ちの日から22年

木村祐介(75回生)

22年前のあの日、仙石線のホームで、家族や友人に見送られた光景を、今も鮮明に覚えていてます。大きなスポーツバックを抱えて、列車の窓越しに見送ってくれる姿を見ながら、18年間過ごした石巻の思い出がよみがえり、新たな生活への期待も入り混じったことを記憶しています。

京都の学校へ進学した私は、文化の違いに戸惑いながらも、新たな出会いに恵まれ、多くのことを学びました。関西独特の賑やかさと、人との距離の近さに最初は驚きましたが、次第にその空気にも馴染み、第二の故郷と呼べる場所になりました。

その後、関西で大手電機メーカーの代理店に就職し、社会人としての一步を踏み出しました。順風満帆ではありませんでしたが、周囲の温かい支えに助けられました。

そして、17年前、東京への異動を命じられ、新たな舞台へと旅立つことになりました。現在は首都圏の大型工事現場に携わり、円滑な工程に向け、商品の供給・人員の配置・効率化に向けた提案を行っております。現場とメーカーの狭間で課題と向き合う日々ですが、形になって残るプロジェクトにやりがいを感じております。

そんな中で、仕事で訪れた得意先で、思いがけず鰐陵の大先輩に出会いました。互いに故郷の話をするうちに、



あつという間に打ち解け、胸が熱くなったことを覚えていてます。離れていても、故郷という絆が確かに存在することを、改めて感じた瞬間でした。旅立ちの日から22年。今も石巻への想いは、変わることなく心の中にあります。どんなに時が経っても、あの日の仙石線ホームで感じた気持ちに胸に、これからも前へ進んでいきたいと思っています。

TOKYOもKOKYOもJOYZOも好きです!...もちろんGAKURYOも!

阿部美奈(81回生)

石高が共学になるんだって!が最新のトピックだったあの頃からだいぶ時が経ちました。

初めまして。石高81回生・共学1期生の阿部美奈です。

私は釧路公立大学を卒業後、松竹芸能のタレントスクールに入学しました。現在は松竹芸能で「ミナノワール」という芸名で芸人活動をしつつ、ソムリエで生計を立て、東京バイオテクノロジー専門学校のお酒醸造・発酵食品コースに通っています。夢は自分のワイナリーをつくることです!

(あれ:芸人は?って話ですよね!全部楽しくて:氣が多い人間ですみません!)

のどかな地が好きで自分がまさか東京に住むとは思っていませんでした。しかし住んだら都、便利すぎて最高です!地方から東京に帰ってきたときに、人の多さと匿名性に紛れ安心する自分もいたります。

そんな大都会TOKYOで、憧れだった石高の歴代のかつ



ちよいい先輩たち・可愛い先輩たちにこの会報を通して出会える機会をいただき感謝しております。そしてこれから実際に会いできることを楽しみにしております。

石高の友人との関係は今でも続いており、たまに食事会も開いています。

クラスが違って話せなかった子とも、大人になってから再会し盛り上がりました。大都会の生活の中で同郷・同じ高校卒業というニッチなくくりは、砂漠の中のアシスのような潤いがあるといえますか:「エモい」ってやつですね。

個性的で優しくてユニークで。いつの時代も刺激を与えてくれて、ありのままの私を

子どもたちとともに成長し続ける教師でありたい

野崎(旧姓:山口)紋佳(82回生)

私は2010年3月に石巻高校を卒業し、現在は仙台市の小学校教諭として働いており、12年目を迎えました。今年5年生の担任をしています。とてもエネルギーシユな子どもたちですが、様々な課題を抱えている子も少なくありません。始業した当初は、私が今までに培ってきたものがなかなか通用せず、子どもたちと良好な関係を築き上げることが難しかったのです。

しかし、そんな時ふと思い返しました。自分が大学に進学し、今こうして教壇に立てているのは、今までにお世話になった先生方、特に石高の先生方の親身なご指導があった

受け入れてくれて安心感をも与えてくれる石高の友人は一生の宝物です。

ニーズに合わせて学び直すことが必要だと切実に感じました。様々な本を読んだり、休日の学習会などにも参加したりし、「子どもの頑張りや小さな成長を褒めること」や「自分が子どもたち一人ひとりと積極的に遊んだり、会話をしたりすること」などを心掛けるようにしました。少しずつですが、子どもたちとの関係を築けてきているように思います。子どもたちの成長を信じ、1年かけ焦らずじっくりと、前向きに関わっていきたいと思います。そして、自分も子どもたちとともに成長し続けていくために精進していきたいと思っています。

《会員からのお便り》近況ハガキ(各回生)

櫻田 巖(21回生)

高齢となり、歩行も長くは難しく自宅で静養しています。最近のプロのバスケットに昔との大変革を感じています。(元涌谷小学校、バスケット部、会社役員、ゴルフ・囲碁)

阿部彦八(22回生)

残りの人生を健やかに。(新

関・ラグビー部)

石川正雄(24回生)

皆様、お元気ですか?私はこの年になりますと、身体の補修も効かず、杖を頼るようになりました。10年間通っていただきます、相変わらず麻雀・将棋を楽しんでおります。総会の盛会を祈っております。

す。(旧制石巻中学校、図書部、商社、読書・音楽(クラシック)・将棋・麻雀)

高山研造(24回生)

妻が認知症になり外出が自由になりました。小生91才を過ぎ身のあちこちに不具合を感じますが、もう少し世の中の変転を見届けたいので頑張って生きていきます。皆様のご健勝を切に祈念します。(旧制石巻中学校、不動産鑑定士、ゴルフ・ハイキング)

玉河信也(24回生)

前回と同じ言葉となりますが、「元気ですが、遠出を控えています。」出席しても同僚はほとんど欠席していると思います。盛会を祈ります。クリニクの医師に「貴方はどんな人か」と突然聞かれ、小生の著書「追憶のアルバム」を差し上げたところ、丁寧な手紙をもらいました。(石巻中学校、陸上競技部、日本郵船機関長)

佐藤充俊(24回生)

最後の石中生として鰐陵の会合から「石中」の旗を降ろしたくないので頑張ってきました。今年最愛の「山の神」が介護保険の適用になり、買い物は私の担当です。昨年は総会出席のために一日2千歩のトレーニングをしましたが、今年はお家の中で歩くと老人特有のヨチヨチ歩きになっています。でもデパートへ行くと、同年配の人が多いので最大限の見栄を張り、シャンシャンと歩き、一人追い越し、二人追い抜いては、ほくそ笑んでいます。病院で話したらドクターも看護師も大笑いでした。そろそろ出席は限界のようです。迷惑をかけそうなので残念乍ら遠慮します。(旧制石巻中学校、バレー部)

高橋清記(25回生)

会の盛会を祈念します。(大谷地中学校)

中里祐二郎(25回生)

ジムに週3回、何とか自分の足で歩けるように頑張っています。(住吉中学校、住友生命保健相互会社)

吉野 敏(25回生)

本年4月に「戊辰戦争・仙台藩の敗因」を幻冬舎から刊行。次回著作を計画。毎日、それなりに多忙。(雄勝中学校、考古学部、東京地方検察庁、司法書士、俳句・句集刊行他)

佐々木俊文(25回生)

今年は同期の阿部剛君、土屋敏君が旅立ちました。90才が大きな壁になるのでしょうか。一日一日を大事にして行きたいと思っています。石高で大きな友人を持ち大変な財産です。東京鰐陵会の明日に栄光あれと祈ります。(住吉中学校、新聞部、金融関係、旅・温泉・音楽・映画)

浅野貞夫(26回生)

まだ「ボケ」は来ないが、独り

での外出はあまり出来なくなつた(電車はダメと家内に言われる)。(浦谷中学校、合唱部、西武百貨店、西友ストア、エンドーチェーン)

三宅宗議(26回生)

90歳とは思いがけぬ年齢。それなら未完の仕事をここから始めよう。(女川中学校、文芸部・人文科学部、無職、クラシック音楽・現代絵画)

徳江 明(27回生)

「じいさん、将棋やろう」小学6年の孫が声をかけてきます。「おう、やろう」対戦成績「全敗」にめげず相手になってやります。いつの間に憶えたのか上達の早いこと驚くばかりです。学童クラブで将棋・チェスやトランプを憶えてくるのです。小学3年の弟も勝負ごとの面白さを吸収している最中です。一家団欒の中心にいるのは、いつも2人の孫で、元気をもらい、生きがいになっています。(石巻中学校、文芸部、公務員、カラオケ)

阿部尚之(27回生)

日々元気に過ごしております。(門脇中学校、ダンス(ワルツ)

ルンバ・タンゴ他)

佐々木利勝(28回生)

歩行(長い時間)苦しくなっています。(桃生(旧中津山)中学校、ラグビー部)

木村莞爾(29回生)

体調不良につき失礼いたします。懐かしい29回生の諸兄にも会いたいです。そのためにも健康が少しでもとり戻せるように、人生もうしばらく粘ってみます。(飯野川中学校、化学部、全日空役員、読書(ミステリー))

野中 浩(29回生)

お陰様にて、足腰未だ動いています。何せ、年老이었습니다。心境は、この先残り5年か10年か。(旧制石巻中学校、化学部、税理士)

今井寅三郎(29回生)

私事の行事で欠席致します。遅くなりごめんなさい。(須江中学校、考古学部)

今野勝幸(29回生)

昨年暮れから体調を崩し入院を繰り返しており、残念ながら欠席いたします。(住吉

勅國儲為天下之本師導乃元良

2年 丹下紗希

遠深夢得静蕭瑟答幽
勅國儲為天下之本師導乃元良

2年 飯塚未姫

中学校。バレー部)

高橋伝四郎(29回生)

南房総の海が見える丘で、未だにログハウス造りに精を出しています。今回は、多忙につき欠席させてもらいます。

(月浜中学校、文芸部、会社員(役員)、読書・園芸・日曜大工)

守屋晃治(29回生)

なつかしい皆様に早く会いたいです。(門脇中学校、柔道部、会社員)

半澤正義(29回生)

今頃は毎日ウォーキングに励んでいます。それ以外はゴルフをしています。田舎で暮らしていると都会へ出るのが億劫になるんです。総会にも出たかったです。残念ながらそんな訳で欠席させて頂きます。(赤井中学校、ラグビー部)

首藤光春(30回生)

所属クラブ欄に「野球部」と会

君諱金字景完敦煌效
穀人也其先蓋周

愛子臨

3年 三浦愛子

三蔵大教盡貯汝
腹矣經律論無

咲

3年 三浦咲

報記載ですが正しくは「ラグビー部」です。今後は訂正方宜しくです。(俳句)『当たり年 祝賀百年 龍の玉』(石巻中学校、ラグビー部、出版社、詠歌・音楽)

半澤哲志(30回生)

母校100周年おめでとうございませう。元気でダイヤモンド婚を1月に迎えました。週2回筋肉トレーニングを兼ねジム通いです。大震災の際には、カリタスジャパン石巻ベースを通じ、支援活動を行っていました。現在もNPO法人「福島やさしい畑」復興プロジェクトに参加し、月1回野菜販売を主催しています。恵み多い皆様でありますように。盛会を祈ります。(女川中学校、バスケットボール部、パナソニック(株)営業(電気)、バスケット・ゴルフ)

木村長人(30回生)

今年(令和6年)春、帯状疱疹を患い未だに完治せず治療を

続けています。その間アルコールを断っており、早い完治が待たれます。他は体調OKです。(大塩中学校、陸上競技部、総合商社、ゴルフ・音楽(演奏))

今野末治(30回生)

太平洋を遙かに見渡せる、あの柔道場で、もう一度乱取りをしたいなあと思ってます(その体力があるかどうか)。柔道場は、どうなったのでしょうか。(住吉中学校、柔道部、社会保険労務士)

高橋 洋(30回生)

免許証を返上したので好きなことが出来ず、その上、歩くことが大変でどこにも行くことが出来ず、いらいらして生きています。(中津山第二中学校、電気部品、写真)

寺沢正興(30回生)

本会の増々の発展を期待と同時に盛会を祈念します。(浦谷中学校、新聞部、グラウンド

ゴルフ)

蜂谷國彦(30回生)

関東在住の30回生で毎年暮と秋にゴルフ会を行っていましたが、2019年秋をもって終了し、同輩との交流がなくなりました。年齢相応に元気ですが、寄る年波には勝てません。(住吉中学校、文芸部、会社役員、読書・ゴルフ)

渡辺 武(30回生)

体調が良く有りません。年中入退院のくり返しです。(中新田中学校、硬式野球部、野球観戦)

飯田勝紀(31回生)

修理のきかないポンコツ車になっしまいました。(石巻中学校、剣道部)

奥山興悦(31回生)

令和6年は、私の裁判官時代の恩師である三淵嘉子さんをモデルとする朝ドラ「虎に翼」が放映されたため、各方面から寄稿や講演の依頼を受けた。10月に東京みやぎ石巻圏人会で「三淵嘉子さんと私と石巻」と題した講演をさせて頂いた。き、改めて、石巻や母校への

思いを語り、また、東京鰐陵会に対する感謝の念を新たにしました。(住吉中学校、英語研究会、弁護士、囲碁・俳句)

阿部 弘(31回生)

会の盛況を祈ります。(鹿又中学校、軟式野球部、住宅資材卸売)

伊藤克夫(31回生)

下手のまま長年続けているフルートで老人ホームライブのボランティアをやっています。体力維持のため、毎日水泳6〜7百mを続けています。事務局活動敬意を表します。(飯野川中学校、音楽部、フルート奏)

北川洋三(31回生)

地元で太極拳の指導をしていて30年近くになります。毎朝近くの公園に集まって太極拳を楽しんでいます。私は杖つきの状態になりましたので、ベンチに腰をかけて手だけ動かしています。趣味の川柳を一句。「枯葉散る太極拳に秋が舞う」(住吉中学校、青少年赤十字、化学技術者・鍼灸師、太極拳・川柳)

桑島 馨(31回生)

ラグビーを60年やっています。ラグビー協会マウスガード委員(須江中学校、ウエイトリフティング部、歯科医師)

遠山日出夫(31回生)

元気に過ごしております。ご盛会を祈念しております。(稲井中学校、柔道部)

猪俣 斌(32回生)

定期的な通院を繰り返しながらも野菜作りや旅行などを楽しみ、元気に過ごしております。(渡波中学校・製造業管理職・野菜作り、旅行)

櫻井庸正(32回生)

毎日毎日もたもたした足を抱えなんとか暮らしています。私の所の袖ヶ浦市長浦地区でも乗り合い送迎バスが出来、自宅付近から駅とか病院とか公民館とかを300円で利用できるようになりましたので今後はこれを利用したいと思えます。足のもたつきの原因が脳にあるいは脊髄からかを探るためセカンドオピニオンの意見を求めて他の病院でも診察中です。(涌谷中学校、会社員、囲碁・スクエアダンス)

阿部倫夫(33回生)

体調不良につき欠席します。(門脇中学校、山岳愛好会)

木村貴則(33回生)

80歳を期に仕事を止めています。大画面テレビを購入して、スポーツ番組を見るのを楽しみにしています。右手には歪です。(住吉中学校、生徒会役員、薩摩琵琶錦心流皆伝木村東水)

明石公夫(34回生)

ボケ防止に英会話教室、カラオケ教室、オカリナ教室に通っています。また、健康維持に冬山スキー、スノボを楽しんでいます。(中津山中学校、柔道部、電気通信、スキー・スノボ・オカリナ)

櫻井勝夫(34回生)

いつもご案内をいただき、ありがとうございます。小学校のボランティアをしながら、元気に暮らしています。(鳴瀬第一中学校、物理部、不動産会社勤務、スポーツ観戦・小学校の交通・防犯ボランティア)

武山佑三(34回生)

ご苦勞様です。体調が勝れず残念乍ら今回は欠席とさせて頂きます。すみません。(住吉中学校、航空業界退職、囲碁)

小川紘一(35回生)

80才になりましたが、元気に働いています。(門脇中学校、経営コンサルタント・大学教員)

片岡敏光(36回生)

コロナ禍、縁あって日本のトップアスリートと出会い、彼が、東日本大震災のとき自衛隊員として派遣されたときの「水難事故によって失う命を減らしたい」との思いに共感し、新水泳トレーニング法の開発に参画、泳げる人などなどの商標権や教習員についての意匠権・特許権を取得したことがきっかけとなり、昨年、喜寿の年に「日本セーフスイム協会」を設立する。港区芝浜小学校全校児童655名の安全水泳授業を実施し79%泳力向上という画期的成果を挙げることができました。喜寿になっても発明出来ることを実感し、知財創造によっ

て、「溺れて命を落とす子供を0にしたい」とのスローガンを掲げ、日本を元気にするためがんばっています。来年は、東京都下の公立小学校へ安全水泳教育を展開、将来、日本全国へ、世界へと波及できることを夢見ています。(石巻中学校、物理部、知財創造コンサルタント、発明)

阿部禧一(36回生)

2024年8月脊柱管狭窄症で入院手術、腰痛はなくなりました。(住吉中学校、税理士)

遠藤信雄(37回生)

喜Ⅱ稀に有る 怒Ⅱ血氣、湧かず 哀Ⅱ友の計報 楽Ⅱ花鳥風月かな? 取Ⅱ安全偶に冒険 捨Ⅱプライド 選Ⅱ良酒但し少々 拓Ⅱ金よりも時 (住吉中学校、コーラス部、建設コンサルタント・土木技術者、カメラ(写真を撮る))

為欠席します。酒と週一ゴルフとお馬の運動会で日々是好日也。盛会を祈念!! (大塩中学校、無職)

阿部 貢(37回生)

所用のため欠席します。総会の御盛会と皆様の御健勝を心よりお祈りいたします。私は元気に週3回のグランドゴルフに精を出しております。(鮎川中学校、銀行員(筑波銀行)、散歩・グランドゴルフ)

神勝一郎(37回生)

喜寿を過ぎて、地球沸騰化の時代の今年の夏は本当に暑かったですね。夏を過ぎて

始平公像一區夫靈
蹤弗或則攀宗靡

3年 星悠華

大伐太和七年新城
敦造石像一區類國
獨秀蘭櫟鼓額於昌
疊駕元世父母及弟
此類孟廣達文蕭顯

3年 岡田明華

体調が回復しません。ご高齢の方々、お気を付けてお過ごし下さい。(大川中学校、テニス部・演劇部、コンサルタント、ハイキング)

阿部盛行(38回生)

喜寿迄に無病息災で家内安全で来た人などおりません。健康である為に、私は2つの流派の太極拳を修練し、地域手話サークルや老人サークルに顔を出しています。これから、国内に入館登れる灯台が16基あり、これら全てを訪ね、国内の島々を5ヶ所、外国もあと4ヶ国程観て来たいと思います。なにせ、色々と煩惱の多い性分ですので、行っても帰れぬ所へは、最後の楽しみにとって置きます。(女川第一中学校、柔道部、シルバー人材業、旅行・太極拳・手話1級)

熊本正義(38回生)

盛会を祈念します。石高100周年を迎えて鰐陵の活躍とOBメンバーの健勝を念じてます。当日は所用先約の為欠席します。(湊中学校、バスケットボール部、コスモ石油・コーナン商事(株)、油

絵・ゴルフ)

小山慶孝(38回生)

喜寿の祝いに子供達のプレゼントはTシャツ。そこにプリントされた文字が「表：この身体77年使ってきました。背中：あと23年は使います。」病気にせず生きてこれたのも、故郷の自然、食べ物、人によって生かされ年を重ねてきた結果……。感謝そして感謝する毎日です。そして23年何をなしとげる……。か……。です。(石巻中学校、人文科学部、医業・医療機器メーカー、ゴルフ・読書・旅行・スポーツ観戦)

荒川憲一(38回生)

専門学校以上大学未満の小さな大学でまだ教鞭をとっています。(門脇中学校、バレーボール部・応援団、大学教員(至誠館大学特任教授))

渡部正昭(38回生)

日課(散歩・テニス・自転車)を一日も永く楽しく続けられる様努めています!!(涌谷中学校、無職、テニス・自転車)

岩崎宏幸(39回生)

ご案内有り難うございます。

9月の敬老会10月の体育祭が無事終わりスタッフの仕事より解放されてホットしてる処です。総会の盛会をご祈念申し上げます。(石巻中学校、卓球部、金融業(銀行・保険)、家庭菜園・ハイキング・街歩き)

熊谷道夫(39回生)

毎回欠席ですみません。今後とも健康第一でがんばっていきます。皆様のご多幸をお祈りいたします。(石巻中学校、国家公務員、ゴルフ)

佐藤泰助(39回生)

石巻高校創立100周年・東京鰐陵会65周年おめでとうございませう。昨年12月について後期高齢者の仲間入りになりましたが、何とか元気に旅を続けております。(門脇中学校、自動車内装部品製造会社、大相撲観戦・旅行)

阿部義治(40回生)

相変わらず、元気に頑張っています。仕事はあと1、2年は続ける所存。(住吉中学校、生物部、自営(監査受託)、登山)

菅原新也(41回生)

俳句三昧です。(寛岳中学校、水泳部、学校法人役員、俳句)

今野洋一(41回生)

現在も国立病院に勤務中です。11月30日は勤務で欠席しますが、盛会を祈っております。

会報22号のご送付、有難うございました。訃報にありました「杉山茂」君は、41回生です。(石巻中学校、(株)リコー、旅行・釣り・スポーツ観戦)

佐々木洋(41回生)

「楽生超寿(楽しみながら百寿の山に登り、尚止まず)」を提唱しながら「世代間コネクト」(上下共に10歳以上離れた友人・知人達との交流)を通じての刺激的日々の毎日。時に短歌をひねりつつ夢を追いつける道を歩いています。(女川中学校、美術部、銀行↓JETRO↓JICA、ODAと雑文投稿(Note.com))

佐藤幸男(41回生)

コロナもおさまり、現在は近場を旅行したり旧友にあつたりのんびり過ごしております。



3年 高橋那知

今回は同期氏家英幸君も参加しますので宜しくお願いします。(石巻中学校、ペンフレンドクラブ、年金生活、旅行)

高橋兵一(41回生)

脱炭素のプラントを作っています。(飯野川中学校、生物部、産業機械設計製作、山登)

藤原秀悦(41回生)

大凡健康に暮らしています。(石巻中学校、バスケット部、コンサルタント(化学系)、ゴルフ)

山形明夫(41回生)

当日欠かせない所用がある為欠席致します。申し訳ございません。(飯野川中学校、卓球部、電気通信業・ホーチキ株式会社)



3年 後藤穂乃花



3年 土井麻緒

村上圭司(42回生)

週3日、JAXA宇宙科学研究所にて、気球実験の技術支援を継続しています。所用により欠席しますが、総会の盛会をお祈りいたします。(住吉中学校、硬式野球部(一年生のみ)部、(元)電機メーカー・(現在)技術コンサル、ゴルフ)

大山良治(43回生)

東京の「お茶の水はりきゅう専門学校」の校長として勤務しております。(湊中学校、吹奏楽部、日本薬科大学客員教授)

佐々木哲雄(43回生)

高齢になってから、尺八の仲間・卓球のサークルの仲間・教会(プロテスタント)の仲間と交流があります。喜んで集まりに参加し楽しい日々です。(飯野川中学校、卓球部、塾、尺八・卓球・読書)

松谷 昇(43回生)

人生100年時代、健康維持を目的に卓球を日々楽しんでいます。(矢本中学校、卓球部)

若山栄作(43回生)

「100周年」記念号を届けて頂きありがとうございます。編集委員の皆様の熱意が伝わってまいりました。特に「高橋英吉」の「不動明王像と自作彫刻刀」は、「上映報告(小田島氏)」とも連動しますが、傑作だと改めて感動した次第です。私は来年5月に個展を予定していますが、制作のための大いなる発奮となりました。(中津山中学校、重量挙げ部、画家、水泳)

佐藤雅洋(43回生)

石高創立百周年記念事業の成功を祈願致します。百周年にあやかって我々もさらに健康

に留意し、日々楽しんでまいりたいと思います。今回は用事があり、残念であります。欠席とさせて頂きます。(湊中学校、卓球部、会社役員、サックス・音楽鑑賞)

田 昭治(44回生)

71歳、毎日フルタイムで働いております。オーダーメイドのプラズマプロセス装置の設計・製作と新規プラズマ源の開発に没頭しております。時々妻と娘家族で旅行なども楽しんでいます。(豊里中学校、会社員(製造業)、野球・ソフトボール・ゴルフ)

青木良有(44回生)

鎌倉ガイド協会理事として、日々鎌倉を歩いています。お近くにお出での際には、ご案内させて頂きます。(雄勝中学校、硬式野球部、NPO法人鎌倉ガイド協会会員、落語)

高橋政昭(44回生)

コロナ収束以降44回生仲間と会う機会が増え、楽しく過ごしております。(湊中学校、バスケット部、自動車部品業、旅行)

平山 博(44回生)

今年初めての大病をしました。生命も健康であつての東京鰐陵会です。今でも校舎の窓から見た太平洋を思い出します。(雄勝中学校、陸上部、会社員、登山)

松野 公(44回生)

出席しなかったのですが、仕事のスケジュールと重なり、申し訳ありません。次回宜しくお願い致します。70歳過ぎても仕事やっています。(門脇中学校、ピアノ調律)

三井 尚(45回生)

退職後趣味検索中。通院のため参加出来ず残念です。老いを感じずにはおれない1年になりましたが、何とか自分らしく笑って過ごそうと思う今日この頃です。皆様くれぐれも御自愛下さるよう祈念致します。(石巻中学校、人文科学部)

山崎義二(45回生)

現役時代、地元に対し何も貢献してこなかったで、体が言うことを聞いてくれる限り、地元に貢献しようと、現在、地域の神社の総代やお寺の世

話役、墓地管理組合の事務局などを引き受けています。退職時の目標だった百名城巡りは達成し、今は続百名城巡り、バンド活動は、年数回のコンサートに出演し、楽しく活動しています。(鳴瀬第一中学校、陸上部、小学校教員、城めぐり・バンド活動)

渡辺信彦(45回生)

昨年初めて総会に参加しました。応援団の「まぼろしの門」に感動しました。仕事は、生涯現役?が目標?(同期の四野見さんから情報をもらっています。感謝)東京鰐陵会31回総会ご準備、運営、ありがとうございます。(前谷地中学校、卓球部、会社経営・代表、登山・版画)

伊藤英二(45回生)

当番回生であるにもかかわらず、総会当日およびその準備の手伝いも出来ず大変申し訳ありません。どうぞ盛大な会となります事を!(門脇中学校、吹奏楽部、音楽講師)

三條慶治(45回生)

お世話様です。都合により欠席させて頂きますのでよろし

くお願い致します。

庄子 茂(45回生)

定年まで勤めた会社で、週3日アルバイトをしています。東日本大震災で復旧工事に携わったのが、現役中の思い出です。(前谷地中学校、陸上競技部、設備工事業、低山の散歩)

津野繁利(45回生)

東日本大震災で野蒜はなく、金欠病。また、種々の病のため通院生活中。(湊中学校、物理部、将棋・音楽(クラシック)(鑑賞))

星 裕亮(45回生)

成人病(糖尿・高脂血症・高血圧)がこれ以上悪化しないよう食事や適度の運動に励んでいます。(石巻中学校、柔道部)



3年 本田紗奈

阿部順市(46回生)

在学中に50周年の記念式典が石巻市民会館で挙行された記憶があります。あれから半世紀、早いものです。(湊中学校、音楽部、会社員、旅行・音楽)

伊藤 隆(46回生)

関東ラグビー協会の理事(書記長)をしております。(雄勝中学校、ラグビー部)

伊藤哲郎(46回生)

石巻高等学校創立百周年、そして東京鰐陵会創立六十五周年、共におめでとうございます。素晴らしい長い年月の節目ですね。今後も多くの石巻卒業生の皆様の参加によって、鰐陵会が更に発展して行くことを望んでいます。(湊中学校、(元)専門学校・大学教職員、(現)オンライン英語教室代表)

佐藤浩二(46回生)

盛会をお祈りします。11月は東京で同級生の移動総会が行なわれ、それに出席予定です。(豊里中学校、元医療関係)

及川和彦(47回生)

相変わらず地域のボランティア

活動(寒川エコネット)、また、神社役員(倉見神社)と、忙しく日々を送っています。一生現役のつもりです。(石巻中学校、物理部、会社員(現在無職)、テニス・ジョギング)

畠山卓弥(47回生)

土曜勤務のため失礼いたします。時々牧山に登ったり、湊の海岸や突堤を見に行っております。(湊中学校、卓球部、医師)

荒木泰弘(48回生)

まあ何とか仕事を続けており、週末の野菜作りで体を動かしたりフレッシュしております。(門脇中学校、軟式テニス部、自営業、家庭菜園)

平塚 仁(49回生)

8年余りの単身赴任生活に終止符を打ち、横浜に戻りましたが、引き続き会社勤めをしています。テニス、ゴルフ、登山がいまだに元気に走り回っています。(湊中学校、硬式野球部、マスコミ、テニス・ゴルフ等)

後藤和也(50回生)

この8月で65歳になりました。あと5年くらいは働くつもりです。60歳からテニスを始め、地域のコミュニティにもなじみはじめました。健康第一で仕事と運動を頑張りたいと思います。(門脇中学校、会社員、テニス)

山戸 淳(50回生)

元気です。(石巻中学校、ヨット・バスケット、電機・設計、将棋・パチンコ)

浅野秀明(55回生)

年齢も60歳の還暦を迎え、更に定年が延長されたことから、これから益々健康管理を意識したいと思います。(蛇田中学校、テニス部、地方公務員(警視庁)、オートバイ・キャンプ・写真)

佐藤祐介(67回生)

山梨県北杜市に山林を買い、週末せっせと開拓しています。(山下中学校、陸上部、自営業、山林開拓)

木村祐介(75回生)

ご無沙汰しております。總會のご案内ありがとうございます。今年は残念ながら会社行事の都合で欠席いたします。皆様のご健康と会の発展をお祈りしております。(湊中学校、柔道部、電設資材商社営業、温泉)



書道部 百周年記念写真

《挿絵について御礼》
「会員からのお便り」コーナーに掲載されています「挿絵」は「石巻高等学校書道部」の皆さんの作品です。この度ご提供頂きました「石巻高等学校書道部」のご理解とご協力に感謝と共に心より御礼を申し上げます。

「百周年記念式典を終えて」

新たな百年に向けて 受け継がれた鰐陵魂

鰐陵同窓会事務局長 二階堂 守宏（57回生）

◎百周年記念式典

令和六年十一月八日マルホンまきあーとテラスにて創立百周年記念式典を行いました。

卒業生、在校生、職員など約九百名が出席、百年の歴史を振り返りつつ、これからの百年に向けての決意を新たにしました内容で、参加された方々

の熱い思いを感じた式典でした。

式典はオープニングで吹奏楽部の素晴らしい記念演奏から始まりました。

式辞で須田一憲校長は「本校の使命は百年の歴史と伝統を継承し、地域の進学拠点校として石巻や宮城、日本、世界に貢献する人材を育成する

こと。これからも志を持った生徒が鰐陵の地に集い学び『自ら進運を開拓すべし』の精神を受け継いで欲しい」と述べました。

また、創立百周年事業実行委員長の青木利光同窓会長の挨拶、歴代の校長先生方や石高の発展に尽力いただいた個人、団体の方々に感謝状を授与しました。

生徒代表挨拶は生徒会長の馬場珀虎（はくと）君が力強く語ってくれました。彼の素晴らしい

挨拶に会場から多くの拍手が贈られました。（大変素晴らしい内容でしたので掲載しました。）

応援披露では応援団長の畠山煌世君を中心とした応援団が登場、演舞の披露、全校生徒はもちろんのこと会場が一体となった「幻の門」、アンコールで校歌も歌いました。式典終了後は自然写真家の

◎感謝状贈呈者一覧

高砂淳二氏（53回生）の「地球人としての自覚を持つて生きる」と題しての記念講演が行われました。「一人一人が未来の地球を創る」というメッセージが印象に残りました。

小玉 卓夫 氏

第26代校長として尽力

小松 敦 氏

第27代校長として尽力

神成 浩志 氏

第28代校長として尽力

高梨 正博 氏

第29代校長として尽力

東京鰐陵会 様

校訓（生徒心得綱領）

パネルの寄付

関西鰐陵同窓会 様

校訓（生徒心得綱領）、

校歌の横断幕の寄付



オープニング（吹奏楽部の記念演奏）



記念式典 壇上全景



須田一憲校長（55回生）の式辞



青木利光実行委員長（43回生）の挨拶



生徒代表 馬場珀虎君の挨拶

畠山 卓弥 氏(47回生)
生徒への奨学金を寄付
佐藤 祐介 氏(67回生)
百周年記念事業に寄付
千葉 蒼玄 氏(45回生)
校訓(生徒心得綱領)
パネル原稿の墨書を作成
亀山 裕昭 氏(70回生)
百周年記念に絵画を寄付
阿部 利彦 氏(45回生)
百周年記念に応援団旗、
ポール、太鼓台を寄付
青木 利光 氏(43回生)
創立百周年記念事業実行
委員長として尽力



応援団長 畠山煌世君



応援団登場

◎生徒代表挨拶

馬場 珀虎(97回生)

石巻高校は大正十二年(一九二三年)の開校から創立百周年を迎えました。この間、私達鰐陵生へ多大なご指導を賜りました先生方や地域の方々、そして全国の多くの鰐陵の先輩方に心から感謝を申し上げます。

本日の百周年記念式典に在校生として出席し、この記念すべき年に在籍できることを大変嬉しく思います。創立以来、石巻高校が歩んできた百年の歴史、それは決して平坦なものではなかったことと思います。どの時代をとって

もそこには石高生ならでの伝統が、誇り高き鰐陵魂がありました。本校は大正十二年(一九二三年)に旧制石巻中学校として開校し、自由な校風の元で多くの生徒が勉学に励んできました。第二次世界大戦の激動の時代を乗り越え、昭和二十三年(一九四八年)には学制改革により石巻高等学校となりました。昭和四十六年(一九七一年)からは生徒会活動のなかで服装自由化に向けて動き出し、服装審議委員会を発足させました。三年間に及ぶ議論の末、昭和四十九年(一九七四年)によりやく私服での生活が可能になりました。今、こうして私達が自らの判断で自由な服装で登校できるのは言うまでもなく、歴代の先輩方のご尽力のおかげです。さらに今から十八年前の平成十八年(二〇〇六年)には男子校から男女共学校となりました。現在では男女問わず地域を超えて活躍しております。平成二十三年(二〇一一年)には東日本大

震災が発生し、避難所として地域の方々を受け入れられました。甚大な被害を受けながらも当時の先輩方は避難所運営に主体的に協力していただきました。直近では令和二年(二〇二〇年)から世界中で蔓延した新型コロナウイルスの影響による校内外活動の規模縮小を乗り越え、現在では学校生



講演する高砂淳二氏(53回生)



東京鰐陵会 加藤友成会長(40回生)への感謝状贈呈



参加者全員で校歌斉唱

活も落ち着きを取り戻しました。鰐陵総体、鰐陵祭、そして強歩大会の三大大行事も復活し、かつての石高の盛り上がりを超えようと生徒一同日々励んでいます。

近年では気候変動の影響を受け、夏場の猛暑は年々厳しいものとなっています。これに対処するために、さらなる服装自由化を求めて、半ズボンの着用に関する話し合いを行いました。半ズボンを制服にしている学校は国内でも少なく、また半ズボンでの登下校は高校生として相応しいのか、などの課題はあります。

これらの活動を通して今年度は八月に一週間の半ズボン着用試験期間を設けました。歴代の先輩方が実現した、この服装自由化をさらに良いものとするため、これからも話し合いを続けてまいります。

この百年で時代は、昭和、平成、令和へと大きく変化しました。石巻高校が歩んできた百年の歴史のなかで様々な困難を乗り越えてきました。しかし、一方で百年間変わらない伝統もあります。石高生の何事にも本気で取り組む姿勢、自由闊達な雰囲気、

誇り高い鰐陵魂はこの一世紀もの間、脈々と受け継がれてきました。

『質実剛健・進取獨創・自ラ進運ヲ開拓スベシ』私達はこの精神をこれからの百年に引き継いでいきます。そして、今ここにいる仲間達と共にこれからの百年の歴史を築いていきます。その初めの世代としてこれからの石巻、宮城、日本、そして世界で活躍する人材となるため、全身全霊で勉学、学校生活に邁進していきます。

令和六年十一月八日
生徒代表 馬場珀虎

◎令和7年度 進路状況

(令和7年3月末現在)

今回の入試は東北大学医学部医学科現役2名など難関大合格もあり、よく健闘しました。

【主な合格先(人数)】

◎国立大学(81)
東北大(6) 宮教大(7)
弘前大(5) 岩手大(11)
山形大(16) 福島大(5)
新潟大(6) 埼玉大(2)
宮城大(7)
その他(16)

◎私立大学(289)

東北学院(95)
東北工大(9)
東北福祉大(23)
東北医薬大(15)
宮城学院女子大(20)
東北文化学園大(7)
獨協大(2) 駒沢大(3)
大東文化(3) 東海大(7)
中央大(5) 東京農大(4)
東洋大(3) 日本大(3)
法政大(2) 武蔵野大(4)
明治大(4) 早稲田大(1)
明治学院(3) 立教大(2)
神奈川大(4)
◎その他(70)
短期大学(1)
看護学校(11)
各種専門学校(11)
公務員(2)

◎令和6年度

各部活動の活躍

6月の県高校総体は通常通り開催されました、3年生にとつて最後を飾る大会であり、東北大会、全国大会への予選会でもあり各部ともよく健闘し、ボート部、ヨット部が全国大会への出場権を獲得しました。インターハイではボート部の男子ダブルスカルが2位に入賞するなど素晴らしい活躍を見せてくれました。

また、文化部も活躍し全国大会へ出場しています。

全国大会での成績は次の通りです。(名前の後の○数字は学年)

インターハイ

【ヨット部】

男子420級43位
千田隼暉③・坂下綾杜③
男子420級45位
石垣歩純③・
小泉廉太郎③
男子ILCA6級20位
佐藤好晟③
女子420級16位
榎木澤玲心③・
齊藤愛莉③

女子ILCA6級13位

岡本光莉③

【ボート部】

男子シングルスカル

準々決勝

黒澤優太③

男子ダブルスカル2位

鈴木伯史③・阿部瑠聖③

女子ダブルスカル準々決勝

岩渕直佳③・櫻井里穂②

全国高等学校総合文化祭

【新聞部】

遠藤由野②・鈴木優那②

【書道部】

軽部恵未③

【美術部】

堀内優衣③



インターハイ ボート部 ダブルスカル準優勝

世代を越えてつながる—— 東京鰐陵交流会開催報告

東京鰐陵会事務局次長 小田島 孝好（43 回生）

2025年6月7日、銀座の「テング大ホール銀座サイン店」にて東京鰐陵会主催による初めての「東京鰐陵交流会」が開催されました。今回の交流会は、「世代を越えて集う東京鰐陵会を目指して」というビジョンのもと、若手世代の参加促進と楽しい交流の場づくりを目的に企画されたものです。

当日は31回生から89回生まで、総勢42名が集い、最年長は84歳、最年少は26歳という幅広い世代構成となりました。実行委員会には東京鰐陵会執行部メンバーに65回生、67回生有志が加わり推進されました。司会は67回生の笠原秀浩さんと43回生の伊藤純一さんが務めました。

開会の挨拶では、加藤会長より「世代の垣根を越えて鰐陵の絆を深めていこう」との力強いメッセージが送られ、続いて65回生の平井大之さんによる乾杯で歓談がスタート。会場内では、初対面同士でも母校を共通の話題に盛り上がる姿が多く見られ、特に若手世代が積極的に会話をリードする様子が印象的でした。

中盤には、紅一点で参加された女性卒業生の自己紹介もあり、会場は一層和やかな雰囲気になりました。終盤には、先輩の方々からも「これから参加したい」とのお言葉がありました。会場は終始明るく、笑い声があちこちから聞こえてきました。最後は記念撮影を行い、交流会は盛会のうちに終了しました。

実施後のアンケートでは、「世代を超えて話ができ、新鮮だった」「もともと多くの同級生にも参加してもらいたい」「運営側の熱意が伝わってきた」などの好意的な意見が多数寄せられました。一

方で、「自己紹介の時間が短かった」「時間が足りなかった」といった改善点も挙げられており、今後の運営に向けた貴重なヒントとなりました。今後も東京鰐陵会では、こうした世代横断的な交流の機会を継続的に設けるとともに、より多くの若手世代の参加を促す取組を進めてまいります。今後の同窓会活動がますます活性化することを期待しています。



交流会集合写真

東京鰐陵会ホームページの案内

東京鰐陵会にホームページがあることをご存じですか。

手持ちのパソコン、スマホから見てください。

アドレスは、<https://www.gakuryou.com/>

「東京鰐陵会」で検索することでも見つけられます。

クラシックなトップページです。中身も定期的には更新されていませんが、時々見てください。トップページにある「鰐陵メール」で情報等もお寄せください。（HP担当：新田）



運営資金援助協力者名簿（2025年8月5日現在）

回生	氏名	回生	氏名	回生	氏名	回生	氏名
23	野中 浩	34	明石 公夫	39	畠山 廣造	44	松野 公
24	佐藤 允俊	34	阿部 千春	40	阿部 義治	45	伊藤 英二
24	高山 研造	34	内崎 光劼	40	石森 雅文	45	大山 巖
24	玉河 信也	34	久保 文征	40	伊勢 邦夫	45	三條 慶治
24	長谷 潔	34	西條 修	40	岩崎久仁夫	45	四野見喜久男
25	佐々木俊文	34	佐々木孝三	40	加藤 友成	45	庄子 茂
25	高橋 清記	34	菅原 國安	40	木村 道夫	45	村山由紀男
25	高橋 和雄	34	武山 佑三	40	斎藤 紀夫	45	新田 裕史
25	中里祐二郎	34	千葉 保宗	40	佐々木清光	45	星 裕亮
25	山下 文祥	35	遠藤 信行	40	佐々木 進	45	本郷 耕基
25	吉野 敏	35	小川 紘一	40	瀬川 徹	45	松永 宏
26	崎野 隆三	35	星野 捷二	40	高橋 憲司	45	三浦 洋次
26	三宅 宗議	35	本木 信	40	田村 隆	45	三井 尚
27	阿部 尚之	36	阿部 長光	40	平塚 善伸	45	山崎 義二
27	徳江 明	36	阿部 禰一	40	萬代 玄	45	渡辺 信彦
27	平塚 久義	36	梅澤 智	40	吉田 章	46	伊藤 隆
27	平山 貞夫	36	菊地 潔	40	渡辺 総一	46	伊藤 哲郎
27	船田 清孝	36	相良 秀夫	41	氏家 英幸	46	佐々木 清
27	吉田 貢	36	三浦 亨	41	遠藤 栄松	46	佐藤 浩二
28	佐々木利勝	37	安住 知彦	41	小関 真悦	46	伏見 洋之
28	成澤 良	37	阿部 貢	41	斉藤 巧	46	森田 弘志
29	今井寅三郎	37	砂金 正郎	41	佐々木 洋	47	及川 和彦
29	岩渕 茂	37	遠藤 信雄	41	佐藤 幸男	47	佐藤 敦彦
29	木村 莞爾	37	木田 洋	41	菅原 新也	47	畠山 卓弥
29	高橋伝四郎	37	今野 和明	41	高橋 兵一	48	明石 和彦
29	千葉 弘二	37	境田 憲男	41	中村 雅俊	48	阿部 正行
29	守屋 晃治	37	榊 勝一郎	41	沼倉 寿男	48	荒木 泰弘
30	木村 長人	37	佐藤 悠	41	藤原 秀悦	48	加藤 博
30	今野 未治	37	白鳥 隆幸	41	宮増 秀一	48	鈴木 雅芳
30	首藤 光春	37	高橋佐千郎	41	山形 明夫	49	平塚 仁
30	高橋 洋	37	丹野 静也	42	伊藤 信一	49	横江 敏勝
30	田中栄太郎	37	千葉 徹	42	伊藤 輝昭	50	扇谷 雄司
30	寺澤 正興	37	星 千秋	42	鈴木 卓郎	50	加藤 仁
30	畠山 尚	37	村井 善郎	42	田口 敏明	50	後藤 和也
30	峰谷 国彦	38	安住 豊	42	土屋 清治	50	佐藤 健
30	半澤 哲志	38	阿部 盛行	42	新田 輝夫	50	伏見 英敏
30	増子 文人	38	荒川 憲一	42	村上 圭司	50	山戸 淳
30	渡辺 武	38	和泉 耕二	43	伊藤 純一	51	高橋 英紀
31	阿部 弘	38	大林 正人	43	今藤幸一郎	52	伊勢 浩明
31	飯田 勝紀	38	尾形 慎次	43	遠藤 洋治	52	高橋 章建
31	伊藤 克夫	38	熊谷 勝義	43	大山 良治	55	浅野 秀明
31	奥山 興悦	38	小池 泰	43	小田島孝好	56	星野 知倫
31	北川 洋三	38	小山 慶孝	43	佐藤 休三	59	大橋 英之
31	桑島 馨	38	佐々木正秀	43	佐藤 淳一	60	佐々木克仁
31	櫻井 勝夫	38	鈴木 睦夫	43	成澤 貴義	62	成家 新一
31	遠山日出夫	38	館澤 佑	43	松谷 昇	65	大子田哲郎
32	阿部 隆雄	38	丁子 幹雄	43	吉田 祐一	65	高橋 俊亮
32	猪俣 斌	38	中島 智	43	若山 栄作	65	平井 大之
32	角田 守弘	38	長沼 金彌	44	青木 良有	65	大和 優雅
32	加藤 憲一	38	早川 誠	44	赤坂 正行	67	色川 賢史
32	鎌田 一郎	38	船山 浩志	44	岩崎 由次	67	笠原 秀浩
32	手代木 扶	38	横田 幸治	44	大森 一隆	67	草刈 敏幸
32	熊谷 正茂	38	渡部 正昭	44	尾口 仁志	67	今野 啓之
33	木村日出夫	39	阿部 重雄	44	樞野 信治	67	佐藤 剛史
33	木村 貴則	39	岩崎 宏幸	44	高橋 政昭	67	佐藤 祐介
33	栗原 光男	39	氏家 一行	44	田 昭治	75	木村 祐介
33	武山 洋治	39	熊谷 道夫	44	半澤 竹彦	87	二階堂

(敬称略)

合計234名／505,000円

2024年度 東京鯉協会 収支報告書

自 2023年10月1日 ～ 至 2024年9月30日

東京鯉協会 会 長 加藤 友成
会計担当 新田 輝夫

収入の部

科 目	収入金額 (円)	摘 要
前期繰越金	1,508,245	2023年10月1日現在繰越金
一般収入		
協力金	231,746	理事会懇親会会費@6,000円×38名=228,000円 運営委員からの寄付3,746円
運営資金援助	1,604,500	会員からの運営資金協力金 (224名)
雑収入	20	郵貯利子
収入 小計	1,836,266	
総会費収入	1,027,000	総会出席者(会員113名、石巻から1名、学生1名)
来賓ご祝儀	27,000	
収入 小計	1,054,000	
収入 合 計	4,398,511	

支出の部

科 目	支出金額 (円)	摘 要
一般支出		
会議費	302,179	理事会懇親会費用284,529円 会議室使用料17,650円
会報誌発行費	220,150	2,000部(デザイン・製作費、印刷費、諸経費)
ホームページ維持費	14,628	サーバー利用料等
交通費、会費、広告費	81,392	鯉陵同窓会本部会報広告代、総会参加費
通信費、雑費	85,867	封筒代、郵送料、メール便発送費等
高橋英吉氏上映会関係	23,957	チラシ製作費、送料等
支出 小計	728,173	(一般収支差額 1,108,093 円)
総会宴会費	694,108	宴会会場費・飲食代、講演者お車代等
準備費用	73,524	「総会資料」印刷代、メール便発送費等
関係事務・雑費	183,093	米寿寿喜記念品代、後納ハガキ料金等
支出 小計	950,725	(総会収支差額 103,275 円)
支 出 合 計	1,678,898	

収 支 の 差 額	2,719,613
-----------	-----------

現 金	33,812
郵便貯金	2,685,801

上記監査の結果、正確・適正に処理されていることを認めます。

2024年10月19日

監 事 佐藤 悠 印
監 事 熊谷 勝義 印

計報

(2025 (令和7) 年7月20日現在)

前回発行以降に連絡及び昨年の総会中止案内の返信等で、
下記のご逝去の報をお受けしました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。鰐陵回生順、年月日は、お受けした返信等によるご逝去の年月日です。

記

17 回生	鈴木 正三	13 年前逝去
20 回生	安住 重一	2023 年（令和 5 年）12 月 29 日逝去
21 回生	山崎 節夫	2024 年（令和 6 年）7 月 12 日逝去
24 回生	佐々木峰雄	2010 年（平成 22 年）3 月 9 日逝去
25 回生	阿部 剛	2024 年（令和 6 年）7 月 16 日逝去
25 回生	木村 修	2020 年（令和 2 年）3 月逝去
25 回生	須田 茂雄	2023 年（令和 5 年）4 月 6 日逝去
25 回生	土屋 敏	2024 年（令和 6 年）逝去
25 回生	沼田昭治郎	15 年前逝去
26 回生	伊藤覇也男	2023 年（令和 5 年）6 月 22 日逝去
26 回生	高山 繁寿	2024 年（令和 6 年）4 月 7 日逝去
30 回生	木村 景俊	2025 年（令和 7 年）1 月 16 日逝去
31 回生	佐藤 孝	2024 年（令和 6 年）4 月 1 日逝去
31 回生	榛澤 亮	2023 年（令和 5 年）12 月 1 日逝去
32 回生	金山 吉雄	2018 年（平成 30 年）4 月 18 日逝去
32 回生	高橋 勝彦	2024 年（令和 6 年）5 月逝去
34 回生	片平 孝	2025 年（令和 7 年）6 月逝去
34 回生	北川 淳	2024 年（令和 6 年）8 月 29 日逝去
36 回生	高橋 幸記	2024 年（令和 6 年）5 月逝去
37 回生	大森 雅司	2023 年（令和 5 年）12 月 11 日逝去
39 回生	平塚 雄治	2024 年（令和 6 年）7 月 1 日逝去
40 回生	中田 洋一	2023 年（令和 5 年）3 月逝去
41 回生	梶谷 鉄朗	2024 年（令和 6 年）11 月逝去

2025年 東京鰐陵会役員名簿(敬称略)

役職	回生	氏名	役職	回生	氏名
参与	33	木村 貴則	理事	40	阿部 義治
参与	34	千葉 保宗	理事	40	斎藤 紀夫
参与	37	丹野 静也	理事	41	高橋 兵一
参与	37	境田 憲男	理事	41	沼倉 寿男
監事	37	佐藤 悠	理事	41	山形 明夫
監事	38	熊谷 勝義	理事	42	茂泉 吉則
会長	40	加藤 友成	理事	42	鈴木 卓郎
副会長	40	瀬川 徹	理事	42	新田 輝夫
副会長	40	平塚 善伸	理事	42	田口 敏明
事務局長	43	伊藤 純一	理事	43	伊藤 純一
事務局次長 (会計担当)	42	新田 輝夫	理事	43	遠藤 洋治
事務局次長 (会計担当)	43	遠藤 洋治	理事	43	小田島孝好
事務局次長	43	小田島孝好	理事	43	成澤 貴義
事務局次長	44	尾口 仁志	理事	43	吉田 祐一
理事	22	鈴木 善治	理事	44	岩崎 由次
理事	25	中里祐二郎	理事	44	尾口 仁志
理事	25	武山 勝	理事	44	平澤 竹彦
理事	28	成澤 良	理事	45	四野見喜久男
理事	29	千葉 弘二	理事	45	新田 裕史
理事	29	今野 勝幸	理事	46	森田 弘志
理事	30	木村 長人	理事	46	佐々木 清
理事	30	首藤 光春	理事	48	阿部 正行
理事	31	奥山 興悦	理事	48	荒木 泰弘
理事	31	桑島 馨	理事	48	鈴木 雅芳
理事	32	小野寺義昭	理事	48	三浦 恵朝
理事	32	手代木 扶	理事	48	水澤 茂
理事	33	熊谷 正茂	理事	49	平塚 仁
理事	33	堀内 文夫	理事	50	伏見 英敏
理事	34	久保 文征	理事	51	森口 秀志
理事	34	佐藤 洋一	理事	52	大内 浩
理事	34	武山 祐三	理事	55	谷口 大造
理事	35	平塚 征一	理事	56	亀山 光浩
理事	36	阿部 長光	理事	56	星野 知倫
理事	36	菊地 潔	理事	58	浅野 剛
理事	37	村井 善郎	理事	59	佐藤 昌克
理事	38	安住 豊	理事	62	成家 新一
理事	38	早川 誠	理事	65	大和 優雅
理事	38	和泉 耕二	理事	65	平井 大之
理事	38	丁子 幹雄	理事	67	笠原 秀浩
理事	39	今野 雅隆	理事	67	佐藤 祐介

(敬称略)

第32回 東京鰐陵会総会のお知らせ

●日時：令和7年11月29日(土) 12:00～15:00
(受付開始11:00)

●会場：「喜山倶楽部：平安の間」

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館9階
Tel：03-3262-7661 URL：https://kizan-club.com/

●会費：10,000円(学生会費2,000円)

<会費は当日受付でお納め下さい>

(会費内訳/総会参加費：9,000円、東京鰐陵会運営資金：1,000円)

●概要：◇第1部：総会

◇第2部：講演会

講演テーマ：「石巻 Re-Create」

・講演者：谷口大造氏
(建築家(55回生))

芝浦工業大学建築学部
建築学科教授



◇第3部：懇親会

●当番幹事回生：46回生

恐れ入りますが、11月14日(金)までにお申し込みください。

お申込み⇒<https://forms.gle/Dku3MgyXnHbdij8J9>

※詳しくは東京鰐陵会 HPをご覧ください。

<https://www.gakuryou.com/>



発行●東京鰐陵会(石巻高等学校同窓会東京支部)

会長 加藤友成

発行所●東京鰐陵会事務所(新田輝夫 方)

〒115-0043 東京都北区神谷1-3-5-304 TEL & FAX：03-3927-8856

編集●東京鰐陵編集委員会

Mail：info@gakuryou.com

【振込み口座】

●郵便振替口座番号：00180-4-350194 加入者名：東京鰐陵会

【編集後記】

今回の東京鰐陵会会報誌「東京鰐陵」23号は「世代交流拡大号」として制作に取り組みました。また会報誌としては活動年度がまたがることもあり「石巻高校創立百周年記念式典」及び「東京鰐陵会創立65周年の節目」を記念した活動報告も掲載しています。

特集については今回も3部構成としました。特集1は「東京鰐陵会総会」の報告です。昨年の総会は百周年の記念事業として石巻高等学校への校訓パネルの贈呈式を実施したことが挙げられます。またミニコンサートも華を添えて大変な盛り上がり様子を報告することが出来た。多少なりとも会場の雰囲気を感じられたことと思います。

特集2は「会員と共に」として百周年を記念した活動の報告をいたしました。特に校訓パネルの寄贈の為に実施した募金活動の報告をしました。また今回のテーマである「世代交流拡大」の為に幅広い世代からの寄稿を頂きました。39回生から82回生までの幅広い方々から協力いただき、充実したコーナーになりました。「会員からのお便り」コーナーではたくさんの方から近況をお知らせいただきました。また挿絵として石巻高校書道部の皆さんの作品を掲載することができ若い力をもらいました。

特集3「母校は今」のコーナーでは「百周年記念式典を終えて」―新たな百周年に向けて受け継がれた鰐陵魂―と題して学校生活の様子を報告しました。そして最後には6月7日に実施した「東京鰐陵交流会」の報告も掲載しました。初めての開催でしたが31回生から89回生までのOB・OGが集まり大変和やかな交流の様子が報告することが出来ました。

本号の編集は従来メンバーと同様に加藤友成会長(40回生)瀬川徹副会長(40回生)平塚善伸副会長(40回生)伊藤純一事務局長(43回生)新田輝夫事務局次長(42回生)遠藤洋治事務局次長(43回生)小田島孝好事務局次長(43回生)尾口仁志事務局次長(44回生)そして新たに荒木泰弘理事(48回生)阿部正行理事(48回生)が加わり10名で行いました。協力いただいたことに感謝しありません。編集会議はZoomによるリモート会議形式が定着しました。今後は女性や若い世代からの編集委員への参加も引き続き呼び掛けていきたいと考えています。ご協力ご支援のほど宜しくお願い致します。

(編集委員会)